

	<p>発行：福山平成大学 F D 推進委員会 〒720-0001 広島県福山市御幸町 上岩成正戸 117-1 084 (972) 5001 (代) fd@heisei-u.ac.jp</p>
--	---

目 次

第 9 回「私の授業発表会」

1. マーケティング論 ～企業の実例を通じた理論の理解に向けて～（徐恩之 講師）	1
徐先生の授業を拝見して ～学生の発言の重要性について～（朝日亮太 講師）	2
2. 経営戦略論 ～戦略的思考を身につける第一歩として～（朝日亮太 講師）	3
朝日先生の授業を拝見して ～図と表をうまく活用した授業の実現～（徐恩之 講師）	4
平成 2 5 年度 F D 研修会報告 ～立命館大学 沖裕貴 先生をお迎えして～ 「大学での学生参画を考えるーピア・サポート、学生 F D スタッフー」	5
平成 2 5 年度 F D 講習会報告「実用統計講座」（経営学科 福井正康 教授）	5
平成 2 5 年度後期 学生による授業アンケート調査結果	6
F D 関連図書コーナー新着案内	1 1
平成 2 5 年度 F D 推進委員会活動記録	1 2

第 9 回「私の授業発表会」

平成 2 6 年 3 月 1 0 日に、今年度の「私の授業発表会」が大会議室で開催されました。今回は、経営学部 経営学科の 2 名の若手の先生により、工夫をこらした授業について紹介されました。それぞれご自身の授業での工夫やそれに対する学生の反応、相手の授業の観察結果についての発表があり、フレッシュで意欲的な発表会になりました。

発表 1

マーケティング論

～企業の実例を通じた理論の理解に向けて～

経営学部 経営学科 講師 徐 恩之

1. 授業概要

マーケティングとは、新製品開発、消費者行動調査、流通チャネル設計、営業活動のような企業が製品の需要を創造するために行う対市場活動であり、本授業は専門教育科目として、2 年次以上の学生を対象として、マーケティングの基礎的な理論と実例を学ぶものである。授業の狙いは、1) マーケティングの理論を理解する、2) まなんで理論を用いて社会現象と問題をロジカルに考える練習をする、3) 企業の行動により興味を持つ、の三点に設定して、授業を進めている。本講義ではマーケティングの概念と理論を理解するために、実際企業で行っているマーケティング活動についてともに勉強している。講義の進め方としては、次の 4 段階に分けている。まず最初は、前週学んだ内容に関して簡単な○×問題をみんなで解いて、解答を確認をし、



内容のリマインドをする。または、学生に日経ビジネスの記事を読んできてもらい、その内容の確認を行う。続いて本格的な講義に入る。本講義は、基本的に『現代マーケティング論』(有斐閣)を教科書に指定し、その内容にしたがって授業を行い、学生に授業内容をまとめたスライドを資料として毎週配っている。そして、DVDを通じた事例学習や学生による発表会を行う。最後に、その日学んだ内容と事例学習の内容を関連づけて問題を提示し、学生にワーキングシートを作成させるようにしている。

2. 授業での工夫

授業では、学習効果を最大にするために、次のような工夫を行っている。一つ目は、ビジュアルパワーポイントを、授業で活用する。スライドには絵や写真を付けるなど、見やすいスライドを作り、学生が説明の対象についてより明確なイメージを持って教員の説明を聞くようにしている。二つ目、内容について説明に入る前には、学生に簡単な問題を問いかけてまず学生の発言を誘い出すなど、学生を授業に巻き込む仕組みを工夫している。最後は、重要キーワードは学生が手で一回書きながら授業を聞くようにしている。学生に提供されるスライドは、重要キーワードが空欄になっている。空欄に入るキーワードを授業の時に見せて、学生自ら空欄を埋めるようにしている。

3. 当該授業の課題

本授業は、上で述べたような工夫を実現していく中で、次のような問題点にぶつかり改善方法の探索が必要であると認知している。それは、スライドの資料を学生に用意して渡すことで、せっかく教科書を指定していながら、学生の教科書の利用頻度を下げってしまった点である。これに関しては、テストの案内をする際、解答に参考すべきページを具体的に学生たちに伝え、教科書の文章を読む機会を増やすようにしている。そして、毎回授業では上で述べた4段階のプロセスによって、授業を進めているが、時間の割り当てに失敗することが多い。それは、その日伝えようとする内容の量と学生たちの自習的活動にかかる時間配分がうまくできていなかったことが原因として考えられるが、それは教員が伝える内容をより計画的にまとめる努力をする必要があると考えられる。

観察者コメント

徐先生の授業を拝見して

～学生の発言の重要性について～

経営学部 経営学科 講師 朝日 亮太

徐先生の講義を拝見して、主に4つのことが印象として残った。まず勉強をする空間でありながらも、いい雰囲気での講義の進行がされていたことである。学生が常に講義に集中するために、常に講義内容を話すのではなく、所々に学生が気軽に聞ける楽しい話をちりばめられていた。難しい専門的な話だけでなく楽しんで聞ける話をいれることにより、学生も講義中は集中して徐先生の話の話を聞いているように感じられた。

次に学生とのやり取りが盛んになされていたことである。講義中に学生とのやり取りも多く見られ、いい雰囲気を作り出すだけでなく、学生の思考を促し、講義の理解を深めるいい機会になっていると感じられた。

そしてグローバル化を意識されていたことである。日本の実例だけでなく、韓国の実例も多く用いられ、国ごとのマーケティングの違いの理解も容易なように感じられた。学生の関心を国内だけでなく海外にも向けるため、学生の視野を広げるよい機会となっていると考えられる。またこの講義で学んだ知識は経営学科で行われている韓国商業施設研修へ参加することにより深めることができ、学科の行事と非常にうまくリンクした講義をされていると感じた。



最後に学生による報告が印象に残っている。この日は中国人留学生による地元産業および文化に関する報告が行われていた。この報告について、新聞やテレビ、インターネットからでは出てこない内容もあり、他の学生も非常に真剣な態度で聞き入っていた。そして、報告後、学生の間で非常に活発な質疑応答がなされていた。この中で、学生は相互理解を深めると同時に他国の産業について自ら関心を持ち講義で得た知識を深めているように感じられた。このことから学生が講義に参加し、積極的に発言することの効果を確認することができた。

徐先生の講義を拝見して強く感じたことは、学生の発言の重要性である。私はこれまで予定通り講義を行うことを優先し、学生の意見を求めることができていなかった。しかし、徐先生が積極的に学生の意見を求め、学生がやり取りを通じ理解を深めている場を目の当たりにし、講義内の学生の発言について再考するいい機会となった。また学生の積極的に発言できる雰囲気生まれ、発言・議論することにより学生も講義を楽しんでいるように見受けられた。私の講義でもこうしたいい雰囲気での講義をするために、学生の発言、学生間の議論を取り入れていきたいと感じた。

発表 2

経営戦略論

～戦略的思考を身につける第一歩として～

経営学部 経営学科 講師 朝日 亮太

1. 授業概要

本講義は3年次配当科目であり、1年次、2年次で学んだ人的資源論やマーケティングなどの知識を必要とする応用的な科目である。本講義の目的として、第一に企業の行動一つ一つに意味があることを認識すること、第二に戦略策定に有用なツールを理解し使えるようになること、第三に戦略の策定を経験することを通じて、自らの人生設計についても戦略的に考えられるようになることの3つを設定し講義を行った。



2. 授業での意識・工夫

本講義は、主に①復習、②講義、③小テストの流れにより行われた。内容については様々な工夫をしている。

①復習は、その日の講義内容に学生がスムーズに入ってもらうために実施した。復習について意識したのは、前回の小テストの結果を参考にし、理解度の低かった箇所を重点的に解説することである。またその日の講義に再度出る内容については予告、再び解説を行い、その日の講義の理解をより深められるようにしている。

②講義の工夫として、まず1回の講義、1つのテーマに絞ったことである。実際には多くの内容を学生に解説する必要があるが、本講義では内容を絞り、内容を繰り返して解説することにより、学生の理解度の深化を狙っている。次に配布資料は必要最低限にとどめ、学生にノートをとってもらったこととした。これは、学生の居眠りを防ぐと同時に、学生に講義に集中してもらうために行った。そして、内容を学生に理解してもらうために、できる限り単純な図を用いた解説を行うようにした。口頭での説明のみでは、学生の理解が容易に進まないと考えている。そこで簡易な図を用いることにより、学生の理解を深めようとした。

③小テストは講義の理解度を確認するために行った。その日の講義の重要点に関する問題を出題、その日に自ら作成したノートを参考に解答してもらう形式とした。ノートの持ち込みを可能にすることにより、ノートをとることに対する学生のモチベーションを高めることを狙っている。また学生がノートを見て自分の力で解答できる難易度設定をすること、そして学生が自分の立場に置き換えて考えられる

ような設問にすることを意識している。これらに加え学生の流行などを教員が捉えられるような設問を設け、情報収集の機会としている。ここで得られた情報は後日の講義に活かすようにしている。

3. 成果と課題

講義を通じて、いくつかの成果および改善点を発見することができた。成果について、第一に3限目(13:00~14:30)という時間帯における効果がみられた。具体的には徹底的にノートを取らせ、その内容を小テストに出題することにより、昼食後に居眠りする学生を少なくすることができたように思われる。第二に、学生の能力の把握ができたことである。小テストにより、学生の態度、能力の把握が容易にでき、小テストの作成および試験の作成に非常に参考になった。第三に情報収集効果である。流行に対する学生の認知度や報じられることのない流行について知ることができ、講義において活用することができた。

課題について、まずノートをとる時間の使い方である。個人間でノートをとる時間に差があるため、先にとり終わった学生への対応が不十分であった。そして分析ツールの運用についてである。いくつか分析ツールについて解説を行ったが、学生にそれらを使用してもらう機会を十分に設けることができなかった。

今回「私の授業発表会」という機会を頂き、改めて自分の講義を様々な視点から見ることができた。来年度の講義には今回の成果および課題を考慮していきたい。

観察者コメント

朝日先生の授業を拝見して

～図と表をうまく活用した授業の実現～

経営学部 経営学科 講師 徐 恩之

朝日先生の「経営戦略論」を参観して、最初に思ったのは3時限目という体力的につらい時間帯であるにも関わらず、学生たちが集中して授業に臨んでいるということであった。それは、朝日先生の授業への工夫からの手ごたえであると思った。この授業の特徴は、先生がプレゼンテーションを用いてパワーポイントを、画面に映すと学生たちがそれを各自ノートで筆記し、それが終わってから先生が説明を行うというのを繰り返すことであった。実際学生たちは、筆記をすることで緊張感を保ちながら授業を聞くことができる。また、一回目で読んだ内容に関して先生から例を交えての説明を受けることで、理解しやすくなっていたと思う。なお、説明をする際は図やグラフを適時作り、レーザーポインターで指しながら説明することで、学生の注意を簡単に集めることに成功していることに気づき、自分の授業にもさっそく導入しようと思った。



なお、朝日先生の授業を伺って、より質の高い授業にしていくために、次のような点を改善することもできるのではないかと考えた。それは、学生をより巻き込む授業の仕組みを作ることである。この授業は、先生の人柄の良さもあり、割と真面目に先生のお話を傾聴する学生が多く、先生と学生の間で信頼関係が強く形成されているように観察された。従って、グループワークや学生による発表など、先生と学生がコミュニケーションをしながら、学生が活躍できる機会をより先生側から提供することで、よりイキイキした授業になれるのではないかと考えた。

平成25年度FD研修会報告 ～立命館大学 沖裕貴 先生をお迎えして～

大学での学生参画を考える

ーピア・サポート、学生FDスタッフー

平成26年2月13日に、本年度のFD研修会が大会議室で開催されました。参加者は約50名です。今年、講師に立命館大学の沖裕貴先生(教育開発推進機構 教育開発支援センター長・教授)をお招きして、「大学での学生参画を考える～ピア・サポート、学生FDスタッフ～」というテーマで、講演をしていただきました。沖先生は、高等教育学や教育工学がご専門で、FDの広い分野で第一人者として、第一線で活躍されている教育学者です。

研修会は約90分で、まずFD活動の一環として、学生同士が専門性を持つ教職員の指導のもとで、援助し、学び合う「ピア・サポーター」制度について説明され、実際に立命館大学でピア・サポーターの学生たちが、いきいきと活動している様子を、DVDをまじえて紹介されました。さらに、ピア・サポーターを導入した結果、支援する側と支援される側の双方の学生たちが、大きな喜びと成長を感じ、

目に見える授業改善が実現できたという強い説得力のあるお話がありました。

また、より専門性を持ち、教職員と協働して大学運営やFD活動そのものへの参画や意見の表明等を行う「学生FDスタッフ」についての説明もあり、立命館大学の学生の層の厚さを感じさせました。

講演後には、熱心で活発な質疑応答が行われ、ピア・サポートに対する関心の高さがうかがわれ、大変有意義な研修会になりました。



平成25年度FD講習会報告

実用統計講座

経営学部経営学科 福井正康 教授

平成25年8月8日及び10日に、経営学部の福井正康教授によるFD講習会「実用統計講座」が、本学のコンピュータ教室で開催されました。

このFD講習会は、授業改善と研究への活用を目指して、毎年福井先生が取り組んでいただき、今年で6年目になります。福井先生がご自身で開発された社会システム分析ソフトウェア「College Analysis」を用いて、毎年異なるテーマで行われ、今年度も看護学部の教員を中心とした参加者のみなさんが、授業改善に役立てようと、熱心に受講していました。

平成26年度にもFD講習会を企画する予定ですので、多数の方のご参加をお待ち申し上げます。



平成25年度後期 学生による授業アンケート調査結果

1. 調査概要

- ア. 実施期間：平成26年1月14日（火）～2月5日（水）
- イ. 対象科目：演習・実習等の科目を除く、全科目（受講者数5名未満の科目は含まず）
- ウ. 実施科目数： 253科目
- エ. 実施方法：科目担当教員が授業時間中にアンケート用紙を配布、学生が回収して学務課に提出。
- オ. 質問項目（平成25年度前期・後期共通）：
- Q1. シラバス（授業概要）は、この授業の履修の決定や学習に役立った
 - Q2. 受講にあたって、学習到達目標や注意事項などの説明・指導は、適切だった
 - Q3. この授業の進度は、適切だった
 - Q4. 教員の話し方は、聞き取りやすかった
 - Q5. 板書や視聴覚機器は、見やすかった（聞きやすかった）
 - Q6. 教員の説明・指導は、わかりやすかった
 - Q7. 教室や実習・実技の環境・設備などは、適切だった
 - Q8. この授業は、有意義だった
 - Q9. この授業にきちんと出席した
 - Q10. 受講マナー（遅刻・早退、私語など）は守れた
 - Q11. 予習・復習・課題提出など、この授業に熱心に取り組んだ
- カ. 回答方法：上記の各問について、5.よくあてはまる～1.全くあてはまらない、の5段階評価。
- キ. その他：科目担当教員の自由設問及び、自由記述欄あり。

2. 大学全体の結果（図1）

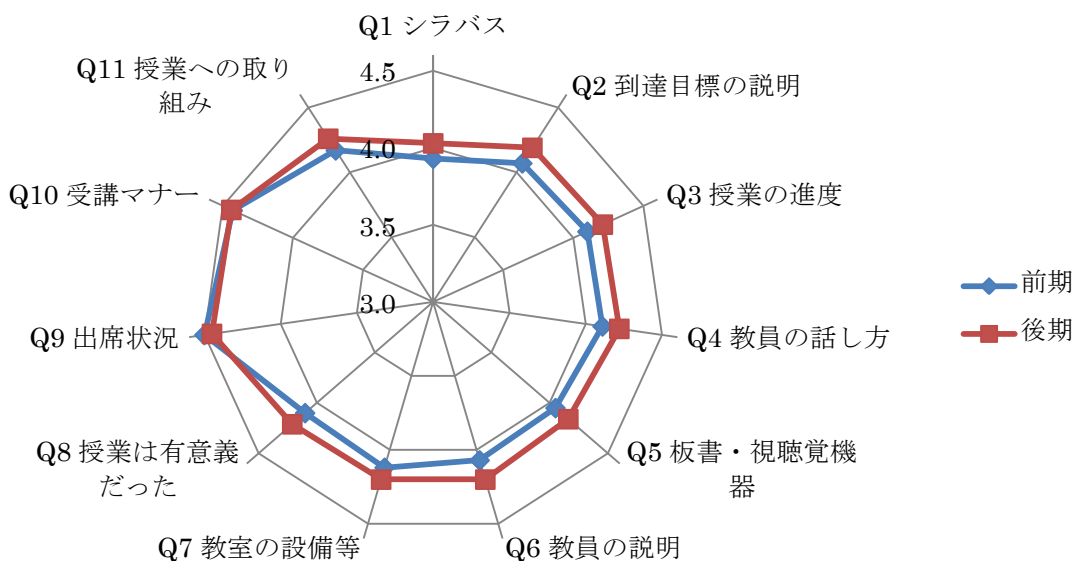
2.1 前回（平成25年度前期）の回答総数と平均値（上段：回答数、下段：割合(%)）

	5. よくあてはまる	4. ややあてはまる	3. どちらでもない	2. あまりあてはまらない	1. 全くあてはまらない	未回答	平均値
Q1 シラバス	2,757 29.58	3,618 38.82	2,621 28.13	218 2.34	102 1.09	3 0.03	3.93
Q2 到達目標・注意事項の説明	3,237 34.74	3,891 41.75	1,893 20.31	216 2.32	78 0.84	4 0.04	4.07
Q3 授業の進度	3,488 37.43	3,742 40.15	1,704 18.29	287 3.08	85 0.91	13 0.14	4.10
Q4 教員の話し方	3,726 39.98	3,518 37.75	1,609 17.27	330 3.54	131 1.41	5 0.05	4.11
Q5 板書・視聴覚機器	3,517 37.74	3,475 37.29	1,760 18.89	381 4.09	178 1.91	8 0.09	4.05
Q6 教員の説明・指導	3,562 38.22	3,518 37.75	1,732 18.59	357 3.83	143 1.53	7 0.75	4.07
Q7 教室の環境・設備・機材	3,600 38.63	3,662 39.30	1,719 18.45	226 2.43	98 1.05	14 0.15	4.12
Q8 授業は有意義だった	3,667 39.35	3,430 36.81	1,805 19.37	260 2.79	125 1.34	32 0.34	4.10
Q9 出席状況	5,902 63.33	2,294 24.62	932 10.00	130 1.39	21 0.23	40 0.43	4.50
Q10 受講マナー	5,372 57.65	2,719 29.18	1,045 11.21	126 1.35	17 0.18	40 0.43	4.43
Q11 授業への取り組み	4,050 43.46	3,133 33.62	1,771 19.00	239 2.56	75 0.80	51 0.55	4.17

2.2 今回（平成25年度後期）の回答総数と平均値（上段：回答数、下段：割合(%)）

	5. よくあてはまる	4. ややあてはまる	3. どちらでもない	2. あまりあてはまらない	1. 全くあてはまらない	未回答	平均値
Q1 シラバス	2,887 35.51	2,986 36.73	2,002 24.63	116 1.43	135 1.66	3 0.04	4.03
Q2 到達目標・注意事項の説明	3,342 41.11	3,140 38.63	1,499 18.44	108 1.33	36 0.44	4 0.05	4.19
Q3 授業の進度	3,519 43.29	3,024 37.20	1,395 17.16	142 1.75	48 0.59	1 0.01	4.21
Q4 教員の話し方	3,668 45.12	2,871 35.32	1,317 16.20	201 2.47	63 0.78	9 0.11	4.22
Q5 板書・視聴覚機器	3,445 42.38	2,916 35.87	1,439 17.70	231 2.84	90 1.11	8 0.10	4.16
Q6 教員の説明・指導	3,586 44.11	2,885 35.49	1,379 16.96	196 2.41	74 0.91	9 0.11	4.20
Q7 教室の環境・設備・機材	3,496 43.01	2,974 36.59	1,449 17.83	158 1.94	45 0.55	7 0.09	4.20
Q8 授業は有意義だった	3,658 45.00	2,764 34.00	1,454 17.89	163 2.01	59 0.73	31 0.38	4.21
Q9 出席状況	4,927 60.61	2,019 24.84	995 12.24	122 1.50	24 0.30	42 0.52	4.45
Q10 受講マナー	4,799 59.04	2,154 26.50	1,032 12.70	86 1.06	18 0.22	40 0.49	4.44
Q11 授業への取組み	4,046 49.77	2,389 29.39	1,419 17.46	171 2.10	58 0.71	46 0.57	4.26

図 1 大学全体の結果



3. 最近4年間の平均値の推移（図2）

	22年度		23年度		24年度		25年度	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
Q1 シラバス	3.74	3.86	3.74	3.83	3.84	3.92	3.93	4.03
Q2 到達目標・注意事項の説明	3.92	3.99	3.89	3.98	3.99	4.06	4.07	4.19
Q3 授業の進度	3.97	4.02	3.95	4.01	4.02	4.10	4.10	4.21
Q4 教員の話し方	3.96	4.01	3.93	4.02	4.01	4.11	4.11	4.22
Q5 板書・視聴覚機器	3.90	3.97	3.86	3.96	3.95	4.04	4.05	4.16
Q6 教員の説明・指導	3.92	3.98	3.91	3.98	3.98	4.08	4.07	4.20
Q7 教室の環境・設備・機材	3.96	4.02	3.94	4.00	4.05	4.11	4.12	4.20
Q8 授業は有意義だった	3.95	4.01	3.93	4.01	4.02	4.10	4.10	4.21
Q9 出席状況	4.46	4.38	4.40	4.32	4.46	4.40	4.50	4.45
Q10 受講マナー	4.31	4.24	4.29	4.21	4.37	4.33	4.43	4.44
Q11 授業への取組み	4.00	4.02	3.94	3.99	4.05	4.10	4.17	4.26

4. 学年別の平均値の比較（図3）

	1年	2年	3年	4年	全体
Q1 シラバス	4.12	3.85	4.18	4.08	4.03
Q2 到達目標・注意事項の説明	4.24	4.07	4.31	4.20	4.19
Q3 授業の進度	4.26	4.08	4.34	4.25	4.21
Q4 教員の話し方	4.24	4.10	4.39	4.27	4.22
Q5 板書・視聴覚機器	4.20	4.03	4.31	4.18	4.16
Q6 教員の説明・指導	4.23	4.08	4.33	4.27	4.20
Q7 教室の環境・設備・機材	4.26	4.07	4.32	4.16	4.20
Q8 授業は有意義だった	4.25	4.11	4.33	4.25	4.21
Q9 出席状況	4.53	4.44	4.37	4.13	4.45
Q10 受講マナー	4.53	4.39	4.39	4.27	4.44
Q11 授業への取組み	4.34	4.19	4.27	4.06	4.26

図2 最近4年間の満足度(Q8)の推移

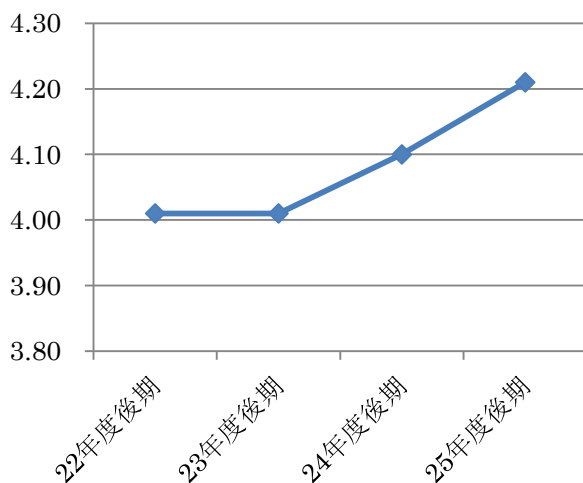
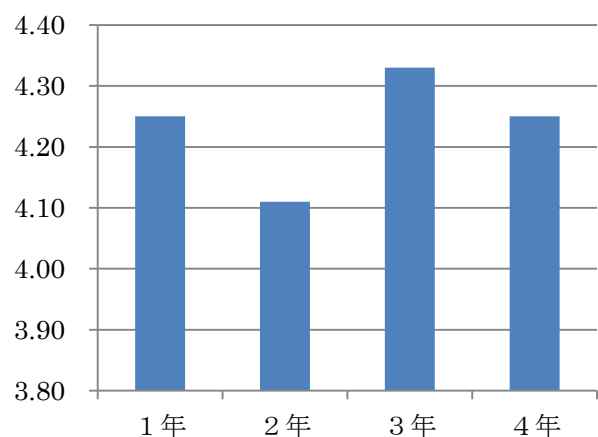


図3 学年別の満足度(Q8)の比較



5. 学科別の平均値（図4）

学部・学科	経営学部	福祉健康学部			看護学部
	経営	福祉	こども	健康スポーツ科	看護
Q1 シラバス	4.18	4.03	4.16	4.03	3.85
Q2 到達目標・注意事項の説明	4.34	4.23	4.29	4.14	4.06
Q3 授業の進度	4.37	4.26	4.31	4.18	4.07
Q4 教員の話し方	4.40	4.28	4.31	4.18	4.07
Q5 板書・視聴覚機器	4.34	4.19	4.26	4.13	4.00
Q6 教員の説明・指導	4.38	4.23	4.31	4.17	4.03
Q7 教室の環境・設備・機材	4.35	4.19	4.33	4.14	4.08
Q8 授業は有意義だった	4.33	4.24	4.32	4.17	4.10
Q9 出席状況	4.11	4.40	4.59	4.34	4.64
Q10 受講マナー	4.17	4.33	4.57	4.35	4.60
Q11 授業への取り組み	4.06	4.14	4.48	4.16	4.32

6. 履修者数別の比較（図5）

	10人未満	10人～24人	25人～49人	50人～99人	100人～	全体
Q1 シラバス	4.46	4.10	4.11	4.06	3.89	4.03
Q2 到達目標・注意事項の説明	4.57	4.32	4.28	4.16	4.07	4.19
Q3 授業の進度	4.51	4.37	4.30	4.18	4.09	4.21
Q4 教員の話し方	4.60	4.38	4.33	4.18	4.08	4.22
Q5 板書・視聴覚機器	4.59	4.31	4.29	4.10	4.03	4.16
Q6 教員の説明・指導	4.54	4.37	4.31	4.16	4.06	4.20
Q7 教室の環境・設備・機材	4.56	4.32	4.29	4.18	4.09	4.20
Q8 授業は有意義だった	4.58	4.34	4.30	4.17	4.11	4.21
Q9 出席状況	4.31	4.30	4.39	4.46	4.54	4.45
Q10 受講マナー	4.37	4.30	4.40	4.45	4.52	4.44
Q11 授業への取り組み	4.21	4.16	4.27	4.30	4.26	4.26

図4 学科別満足度(Q8)の比較

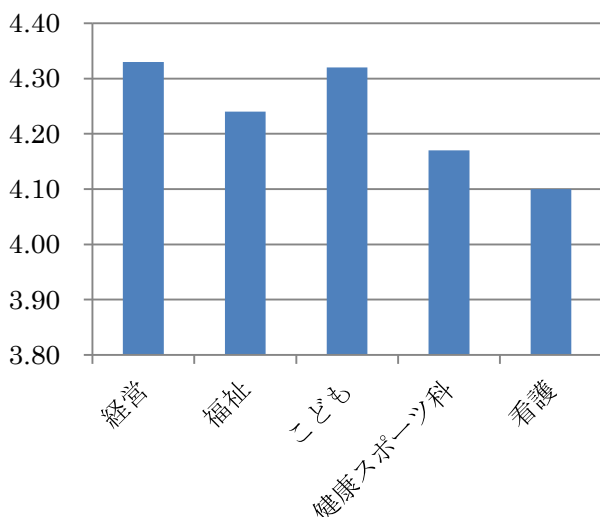
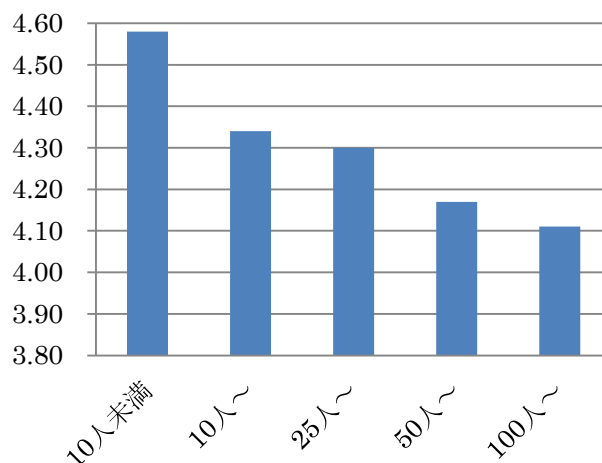


図5 履修者数別満足度(Q8)の比較



7.出席状況等別の比較（図6）

7.1 出席状況別の比較

Q9. きちんと出席した	5. よくあてはまる	4. ややあてはまる	3. どちらでもない	2.あまりあてはまらない	1.全くあてはまらない	全体
Q1 シラバス	4.23	3.89	3.37	3.62	2.88	4.03
Q2 到達目標・注意事項の説明	4.40	4.03	3.52	3.77	3.33	4.19
Q3 授業の進度	4.41	4.06	3.55	3.88	3.21	4.21
Q4 教員の話し方	4.42	4.06	3.56	3.90	3.54	4.22
Q5 板書・視聴覚機器	4.36	4.01	3.52	3.85	3.25	4.16
Q6 教員の説明・指導	4.40	4.04	3.56	3.79	3.33	4.20
Q7 教室の環境・設備・機材	4.42	4.02	3.52	3.78	3.25	4.20
Q8 授業は有意義だった	4.42	4.03	3.47	3.83	3.08	4.21
回答件数	4,927	2,019	995	122	24	8,087

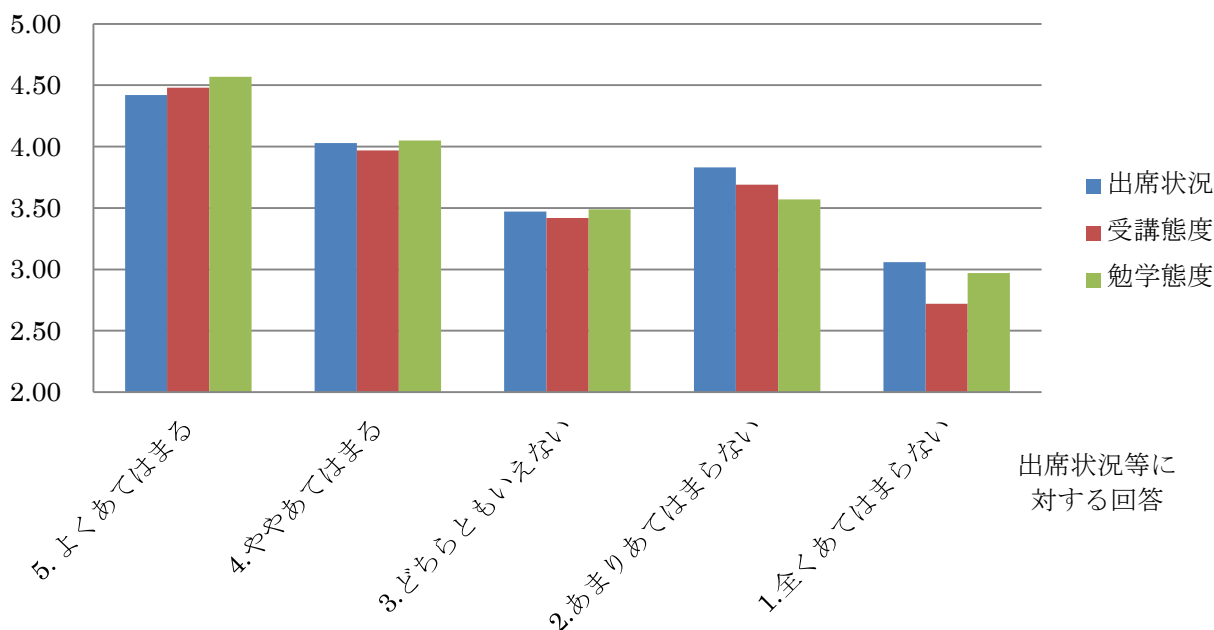
7.2 受講態度別の比較

Q10. 受講マナーを守れた	5. よくあてはまる	4. ややあてはまる	3. どちらでもない	2.あまりあてはまらない	1.全くあてはまらない	全体
Q1 シラバス	4.28	3.84	3.35	3.08	2.83	4.03
Q2 到達目標・注意事項の説明	4.45	3.98	3.47	3.58	2.78	4.19
Q3 授業の進度	4.46	4.01	3.51	3.59	3.00	4.21
Q4 教員の話し方	4.48	4.00	3.51	3.72	2.72	4.22
Q5 板書・視聴覚機器	4.42	3.94	3.45	3.59	3.00	4.16
Q6 教員の説明・指導	4.46	3.98	3.48	3.69	2.72	4.20
Q7 教室の環境・設備・機材	4.47	3.97	3.46	3.59	2.61	4.20
Q8 授業は有意義だった	4.48	3.97	3.42	3.69	2.72	4.21
回答件数	4,799	2,154	1,032	86	18	8,089

7.3 勉学態度別の比較

Q11. 熱心に取り組んだ	5. よくあてはまる	4. ややあてはまる	3. どちらでもない	2.あまりあてはまらない	1.全くあてはまらない	全体
Q1 シラバス	4.39	3.87	3.38	3.50	3.10	4.03
Q2 到達目標・注意事項の説明	4.54	4.02	3.55	3.73	3.12	4.19
Q3 授業の進度	4.55	4.06	3.60	3.79	3.21	4.21
Q4 教員の話し方	4.56	4.07	3.57	3.87	3.19	4.22
Q5 板書・視聴覚機器	4.51	3.99	3.51	3.74	3.16	4.16
Q6 教員の説明・指導	4.55	4.05	3.54	3.74	3.03	4.20
Q7 教室の環境・設備・機材	4.56	4.02	3.53	3.76	3.10	4.20
Q8 授業は有意義だった	4.57	4.05	3.49	3.57	2.97	4.21
回答件数	4,046	2,389	1,419	171	58	8,083

図 6 出席状況等別満足度(Q8)の比較



FD 関連図書コーナー新着案内

図書館 1 階の参考図書架に設置されている「FD 関連図書コーナー」が、今年度蔵書が新たに追加され、さらに充実しました。国内外のFDや教育に関する主要な図書を幅広く集めて、自由に閲覧、貸し出しもできるようにしていますので、ぜひご利用下さい。多数の方のご利用を、心からお待ちしております。今年度新しく入った図書の主なものは、次の通りです。

書 名	著 者 名
ICTで実現する大学教育改革	岩手大学大学教育総合センター
大学教員の能力: 形成から開発へ	東北大学高等教育開発推進センター
思考し表現する学生を育てるライティング指導のヒント	関西地区FD連絡協議会
大学生のためのリサーチリテラシー入門 研究のための8つの力	山田剛史, 林創
大学教育改革と授業研究	須藤敏昭
「深い学び」につながるアクティブラーニング	河合塾
学生支援GPの実践と新しい学びのかたち	大島勇人, 浜島幸司, 清野雄多
学生FDサミット奮闘記	梅村修, 木野茂
大学教員のためのFD手帳	ナカニシヤ出版
学生と楽しむ大学教育	清水亮, 橋本勝
大学を変える、学生が変わる	木野茂
大学教育アセスメント入門 学習成果を評価するための実践ガイド	B・ウォルワード著/山崎他訳
学生・職員と創る大学教育	清水亮, 橋本勝
生成する大学教育学	京都大学高等教育研究開発推進センター
大学における学習支援への挑戦 リメディアル教育の現状と課題	日本リメディアル教育学会監修
初年次教育の現状と未来	初年次教育学会編
学習支援と教師の仕事	宇田川拓雄, 福田薫, 吉井明
学びを共有する大学授業 ライフスキルの育成	島田博司
大学教育の再構築: 学生を成長させる大学へ	金子元久
なぜ日本の大学生は、世界でいちばん勉強しないのか?	辻太一朗
ティーチング・ポートフォリオ導入・活用ガイド	皆本晃弥
シリーズ大学 1~6 社会変動と大学他	広田照幸, 吉田文, 小林伝司他

平成25年度 FD推進委員会 活動記録

平成25年 5月24日	平成25年度 第1回委員会 議題 1) 平成24年度活動内容について 2) 平成25年度活動計画案 3) その他
7月16～29日	学生による授業アンケート調査 (前期)
8月8、10日	FD講習会「実用統計講座」 講師 経営学部 経営学科 福井 正康 教授
9月12日	平成25年度 第2回委員会 (自己評価委員会と合同開催) 議題 1) 学生による授業評価の活用について 2) その他
10月8日	平成25年度 第3回委員会 議題 1) 前期授業アンケート結果の分析について 2) その他
12月17日	平成25年度 第4回委員会 議題 1) 授業アンケートについて 2) FD研修会について 3) その他
平成26年 1月14日～ 2月5日	学生による授業アンケート調査 (後期)
2月13日	平成25年度FD研修会 テーマ 「大学での学生参画を考える ～ピア・サポート、学生FDスタッフ～」 講師 立命館大学 教育開発推進機構 教育開発支援センター長 沖 裕貴 教授
3月3日	平成25年度 第5回委員会 議題 1) 授業アンケートについて 2) その他
3月10日	第9回 私の授業発表会 授業発表と参観報告 経済学部 経済学科 徐 恩之 講師 経済学部 経済学科 朝日 亮太 講師
3月	FD関連図書コーナー (図書館) 蔵書追加
3月31日	FDニューズレター第10号発行

編集後記 FDニューズレター第10号をお届けします。今年度は、経済学科の若手の2人の先生によるフレッシュな「私の授業発表会」や、立命館大学から沖先生をお迎えしてのFD研修会、福井先生によるFD講習会、学生による授業アンケートなど、本学のFD活動への取り組みも、順調に軌道に乗ってきたと考えています。先生方のFDに対する前向きな意欲の手応えを感じます。ご協力どうもありがとうございました。お礼を申し上げます。今後とも福山平成大学のFD活動が、より活性化していくよう努力してまいりますので、どうぞご指導ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。(K. K)